

呉工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築史Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0191		科目区分	専門 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	藤岡通夫他『建築史』市ヶ谷出版社、2010年(建築史ⅠⅡの教科書を引き続き利用)				
担当教員	岩城 考信				
到達目標					
1. 産業革命以降の西洋における近代建築の発生について説明できる。 2. 西洋の近代建築様式について説明できる。 3. 明治以降の日本における近代建築の導入過程とその発展過程について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
産業革命以降の西洋における近代建築の発生	産業革命以降の西洋における近代建築の発生についての的確に説明できる。	産業革命以降の西洋における近代建築の発生について説明できる。	産業革命以降の西洋における近代建築の発生について説明できない。		
西洋の近代建築様式	西洋の近代建築様式についての的確に説明できる。	西洋の近代建築様式について説明できる。	西洋の近代建築様式について説明できない。		
明治以降の日本における近代建築の導入過程とその発展過程	明治以降の日本における近代建築の導入過程とその発展過程について的確に説明できる	明治以降の日本における近代建築の導入過程とその発展過程について説明できる	明治以降の日本における近代建築の導入過程とその発展過程について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)					
教育方法等					
概要	建築史は建築学分野の包括的な専門知識と能力を養うために設けられた科目である。先人達の建築技術向上の努力や建築文化および建築様式の歴史的な流れを学び、授業を通して知的探求心を身につけることを目的とする。				
授業の進め方・方法	本授業は、講義形式で行う。建築史Ⅱでは、前半に西洋における近代建築の発生と発展の過程、後半に日本における明治以降の西洋近代建築の技術や様式の導入とその発展を学ぶ。学修単位である本授業では、2回の小テスト(学習時間10時間以上)と1つのレポート作成(学習時間12時間以上)を通して、知識の定着を図る。そのため、レポートの未提出者には単位を与えない。				
注意点	勉強方法 1. 教科書『建築史』を繰り返し読み歴史の流れをつかむ。 2. 配布資料により写真を確認し、重要な用語と造形の特徴を覚える。 3. 授業中に不明な点は質問し、理解の度合いを確かめる。 4. この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習のための課題を実施する。  成績評価 成績評価の割合については、この科目シラバスの最下部にある「評価割合」の欄を参照すること。この欄にある「総合評価割合」の「合計」100%のうち60%以上到達すれば合格となる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	近代建築の発生	産業革命と建築、鉄骨造建築の発展について説明できる	
		2週	近代建築運動のはじまり	近代建築運動の発生、ウィリアム・モリスの工芸運動、アールヌーボーについて説明できる	
		3週	近代建築の造形的開拓	フグナーの建築理論、ゼツェッションについて説明できる	
		4週	近代建築様式の確立	芸術と産業の融合、RC造の開拓について説明できる	
		5週	WWⅠ後の近代建築01	表現主義、デ・ステイルの建築について説明できる	
		6週	WWⅠ後の近代建築02 国際建築の発展	バウハウス、エスプリ・ヌーボーとル・コルビュジェ、バウハウスと国際建築について説明できる	
		7週	1930年代の近代建築	近代建築の普及、北欧における地域主義、ライトの有機的な建築について説明できる	
		8週	中間試験	西洋の近代建築について総合的に説明できる	
	2ndQ	9週	日本の近代建築・産業革命と洋風建築	洋風建築の伝来、外国人技師の活動、コンドルの来日と日本人建築家について説明できる	
		10週	耐震建築構造の発展	新構法の導入と耐震構造の工夫、耐震設計理論の研究について説明できる	
		11週	近代建築思潮と国際建築様式の展開01	西欧近代建築思潮の影響、分離派建築会、関東大震災後の公共建築について説明できる	
		12週	近代建築思潮と国際建築様式の展開02	国際建築様式の展開、様式主義建築の近代化、伝統と近代建築との交差について説明できる	
		13週	WWⅡ後の近代建築(世界)	アメリカと工業主義の建築、現代建築の諸傾向について説明できる	
		14週	WWⅡ後の近代建築(日本)	産業の発展と近代建築の普及、戦後の代表作品について説明できる	
		15週	期末試験	日本及び世界の近代建築について総合的に説明できる	
		16週	答案返却・解答説明	日本及び世界の近代建築について総合的に説明できる	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	近現代都市の特質と課題について説明できる。	4	
				近代の都市計画論について説明できる。	4	
				現代にいたる都市計画論について説明できる。	4	
				日本および海外における近現代の建築様式の特徴について説明できる。	4	
評価割合						
	試験	小テスト	レポート		合計	
総合評価割合	80	10	10	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	
専門的能力	80	10	10	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	